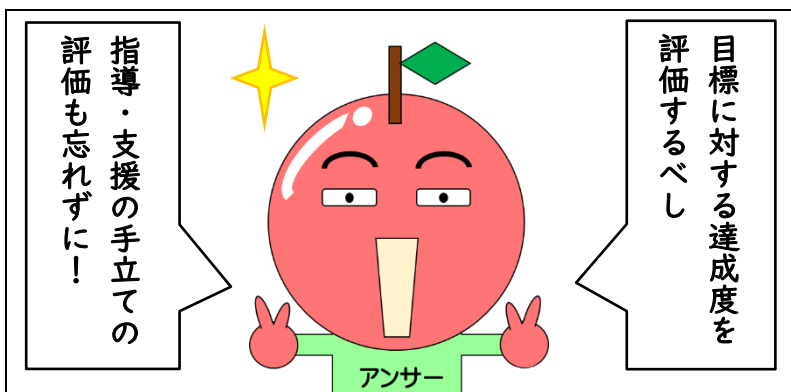
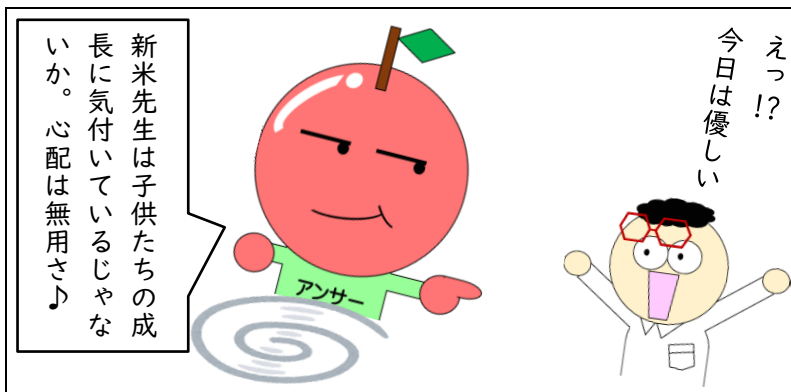
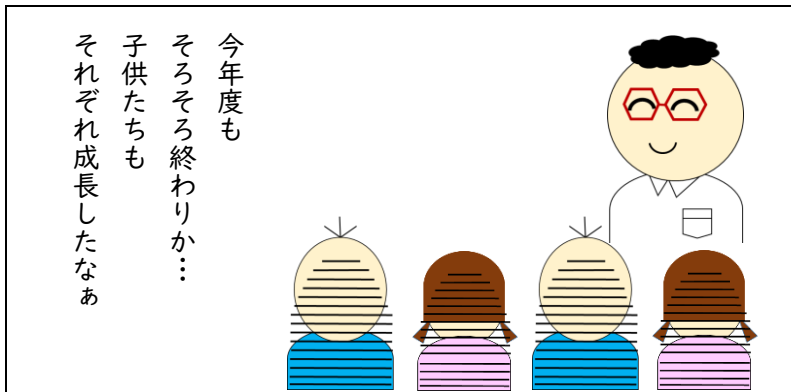


Q28. 個別の指導計画の評価がこれでよいのか不安です…。



目標に対する達成度を評価する

- 日々の指導記録から短期目標の評価をします。
- 短期目標の評価を踏まえて長期目標を評価していきます。

短期目標を具体的に立てることで、日々の指導のねらいが明確になり、評価の視点も明確になります。日々の評価を積み重ねて短期目標を評価し、さらにそれを積み重ねて長期目標を評価していきます。

また、評価は、どこまでできればよしとするかについて、数値や具体的な姿として明確に設定すること（評価基準の設定）が大切です。

【評価結果の記述例】

- 目標は達成できた。次の目標に進む。
- 向上は見られたが、目標達成にはもう少し時間が必要である。
- 予想していたよりも向上が見られなかった。
- 欠席等が多く、向上が見られなかった。

「評価基準」設定時の留意事項

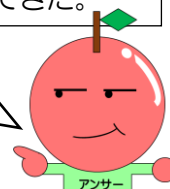
- ・ 指導過程の様子について記録し、様子の変化をデータ化する。
- ・ 課題をスモールステップ化し、どの段階まで達成できたかを指標とする。
- ・ 可能であれば数値化できるように工夫し、できた回数や量等を指標とする。

(例) **目 標** 自分の順番をいすに座って静かに待つことができる。

手立て 落ち着いて待つことができるように、待っている間に取り組む活動を準備したり、定期的に休憩の時間を取り入れたりする。

評 価 好きな本を読みながら、10分間静かに待つことができた。卒業式の練習では、10分おきに体を動かすことで、30分間、体育館で過ごすことができた。

「ほぼ」「だいたい」「あまり」「一応」等の曖昧な表現は避け、具体的に記述することが大事！



手立て・支援を評価

- 子供だけではなく、指導する側の手立てや支援についても評価しましょう。

つまずきがみられた場合、子供側の要因を考えることが少なくありません。もちろん、子供の状態像に目を向けることは大切ですが、同じくらい大切なのが、指導する側の指導を振り返ることです。評価をする際には、どちらか一方だけではなく、両方向からのアプローチが不可欠です。

指導の振り返りでは、

- 自分の考えた目標や指導・支援の手立てが適切であったか。
- 教師自身の特徴（話し方、教え方、教材の作り方・提示の仕方、教室環境の準備等）は子供に合っていたか。

を評価することで、より適切で効果的な指導・支援へと改善することができます。また、評価については、個別の指導計画の作成と同様に、複数の教員で評価したり、評価したものをみんなで確認したりすることが大切です。

【文献】海津亜希子（2017）：個別の指導計画 作成と評価ハンドブック、学研。
徳島県立総合教育センター（2008）：個別の指導計画を作成するために。
全国心身障害児福祉財団（2011）：新しい自立活動の実践ハンドブック。

よく一緒に読まれているQ

Q16 「自立活動の指導の評価は、どのように書いたらよいか分かりません。」

Q25 「個別の指導計画の長期目標と短期目標を立てましたが、これでよいか不安です…」

[目次に戻る](#)